

2/21・22

第9回可児市環境フェスタ

エコについて考えよう

2月21日と22日、広見公民館ゆとりピアで「第9回可児市環境フェスタ」が開催されました。今回のテーマは「ストップ地球温暖化！やってみようエコライフ」です。

環境団体や企業、市民、市などが、さまざまなブースで出展し、2日間でおよそ1700人の来場者でにぎわいました。

同フェスタのプレイベントとして行われた、可児川一斉清掃の成果も写真などで展示されました。

21日は開会式が行われた後、市内の小学校・高校合わせて10校の児童生徒が、それぞれ環境について調べたことや取り組みなどについて、資料や映像を使い、趣向をこらした発表を行いました。

また22日は、可児工業高校生の指導



活動の成果を発表する小学生たち

によるソーラーカーや人工いくら作り、デポジット体験コーナー、各種市民団

体による体験コーナーなどに多くの人が参加しました。午後からは、沖縄の南ぬ風人まーちゃんバンドによるコンサートやトークが行われ、「自然がな

くなるのはあつという間ですが、元に戻るにはたくさんさんの時間が必要です。自然を守るために、今から一人一人ができることを始めましょう。」と語り

かけました。

観客は太鼓の音や掛け声に合わせて盛り上がり、会場は沖縄の風に包まれました。



南ぬ風人まーちゃんバンドによるコンサート



壊れたおもちゃ、直すかな？
(おもちゃ病院ブース)

2/18~23

自分の可能性と未来を信じて

第15回可児市福祉芸術祭

第15回可児市福祉芸術祭が、文化創造センターで開催されました。この催しは、障がいのある人による舞台芸術などを通して、障がいへの理解を深めるために毎年行われています。

2月22日に、視覚に障がいを抱えながら作曲家、音楽家として活躍している前川裕美さんが、ピアノの弾き語りやトークを行い、約300人の聴衆を魅了しました。

前川さんは、学生のころに受けた心の傷を乗り越え、「音楽家になる」という夢に向かって生きてきたことなどを話しました。

同時に会場では、市内の障がい者施設の利用者たちによるソーラン踊りやハンドベルの発表なども行われました。



ピアノの弾き語りをする前川さん

また、2月18日から23日まで、障がいのある人が制作した絵画や書道、工芸品などのほか、市内の障がい者施設の利用者が制作した合同作品、合わせて約40点を展示する美術展も開催されました。

個性豊かな作品が、期間中に訪れた512人の来場者の目を楽ませています。



さまざまな作品が展示されました



元気にダンスと太鼓を披露

3/14・15

舞台発表

市民ミュージカル

3月14日と15日、文化創造センターで市民ミュージカル「あいと地球と競売人」が開催されました。

「あいと地球と競売人」は、地球環境保護を訴えるマンガを描いた直後、急病で亡くなった島根県斐川町の小学6年生・坪田愛華さんの遺志をモチーフに作られたミュージカルです。

今回は、可児市で市民参加による実施を企画、総勢140人を超える大勢の市民キャストと可児ウインドオーケストラが地球の大切さを伝えました。2日間の公演は、ほぼ満席となる盛況



子どもたちの熱演が伝わってきます

況ぶり、約半年間、練習を重ねた出演者は、素晴らしい笑顔で舞台を終えました。

来場者は「市民ミュージカルとしてはとてもレベルが高かったので驚きました」「もつと環境のこと、地球の大切さを考えなければならぬ」と実感しました。などと話し、感動の面持ちで会場を後にしました。



主演の稲垣恵利花さん



迫力のステージ

3/7・8

市場の一般開放

新鮮な食材をどうぞ

3月7日と8日に、可茂公設地方卸売市場が一般開放されました。これは、市民の皆さんに市場を身近に感じていただきたいと、同市場一般開放実行委員会が行っているもので、今回で5回目となりました。

初日の7日は、場内に豚汁などの販売コーナーなどが設けられ、野菜や果物、鮮魚などを買い求めるたくさんの家族連れでにぎわいました。

また、来場者が参加して競り売りが行われ、大根やリンゴなどが次々と競り落とされました。



活気あふれる競り売りの様子

3/2~16

心の風景写真展

四季折々の可児市の風景を紹介

3月2日から16日まで、市役所正面玄関ロビーで、「心の風景」写真展が開催されました。「心の風景」は、広報かに毎月1日号の裏表紙に連載されているもので、これまでに掲載した写真の中から「カタクリ」や「紅葉」など各月2枚ずつを選び、未掲載写真を含めた29点が展示されました。

来場者は、季節感あふれる色とりどりの写真の前で足を止め、見入っていました。



心癒される写真がいっぱい